

服薬管理についてのアンケート結果

1. アンケート実施期間

平成30年7月3日～20日

2. アンケート実施先

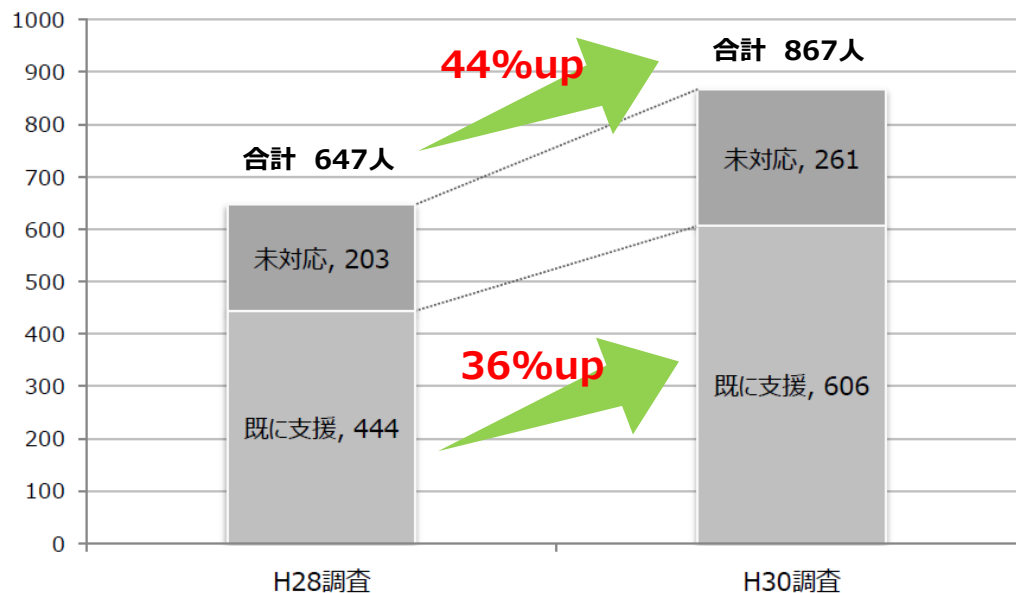
薬局(薬剤師)、訪問看護ステーション(訪問看護師)、ケアマネジャー、訪問介護事業所

3. 回答状況

職種等	対象数	回答数	回収率
薬剤師 (単位：事業所)	36	20	56%
訪問看護師 (単位：事業所)	7	6	86%
ケアマネジャー (単位：人)	98	76	78%
ホームヘルパー (単位：事業所)	22	10	45%
計	163	112	69%

4. 服薬管理が必要な利用者

＜図1：服薬管理が必要な利用者数の推移＞（単位：人）



○「服薬管理が必要な利用者数」、「服薬管理が必要な利用者のうち何らかの支援をしている人数」のいずれも増加した。

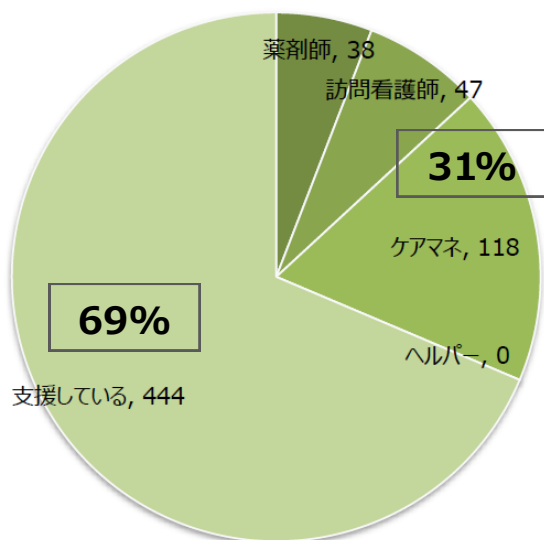
【服薬管理が必要な利用者数】(H28)647人 ⇒ (H30)867人 44%増加

【そのうち既に支援している人数】(H28)444人 ⇒ (H30)606人 36%増加

<図2：服薬管理の状況（職種別）>

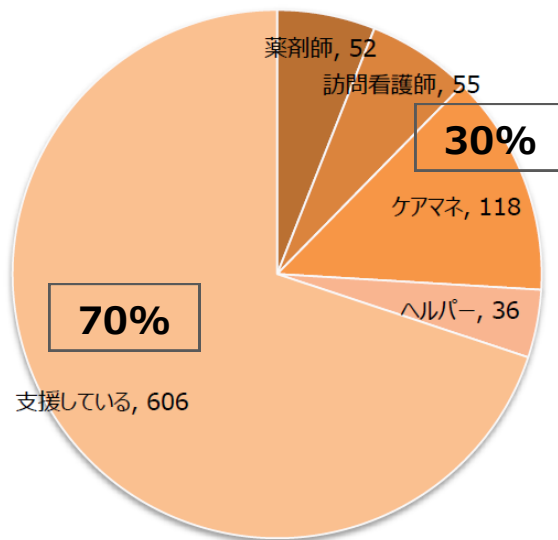
H28アンケート結果

（単位：人）



H30アンケート結果

（単位：人）



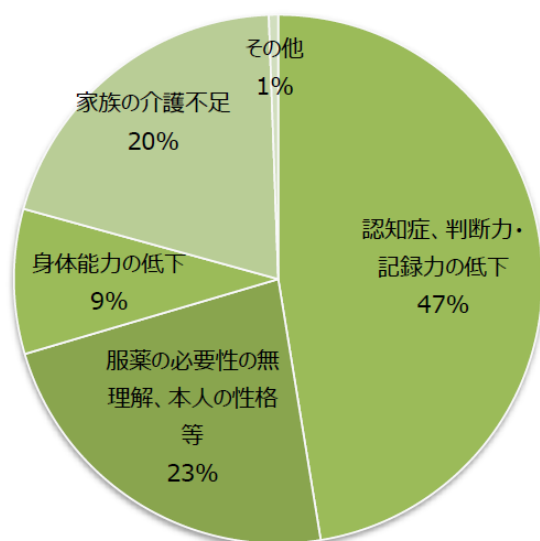
○服薬管理が必要な利用者のうち、「新たに支援が必要な利用者数」の割合は3割となっており、前回アンケートとおおむね同じ割合となっています。

○前回アンケートからの変化として、ヘルパーが服薬管理が必要な利用者を把握している可能性がある事が分かりました。

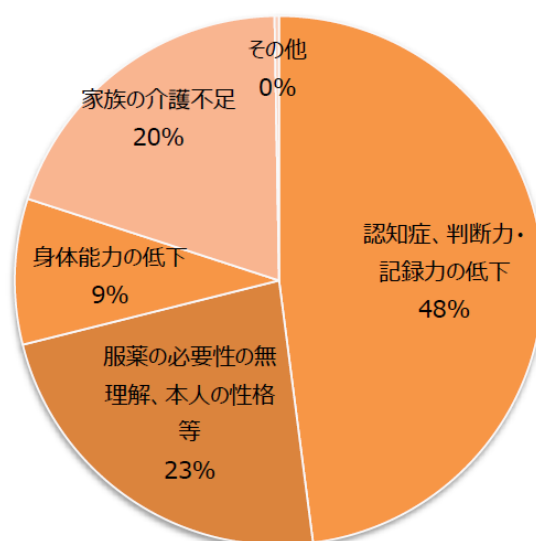
5. 服薬管理が必要な理由

<図3：服薬管理が必要な理由>

H28アンケート結果



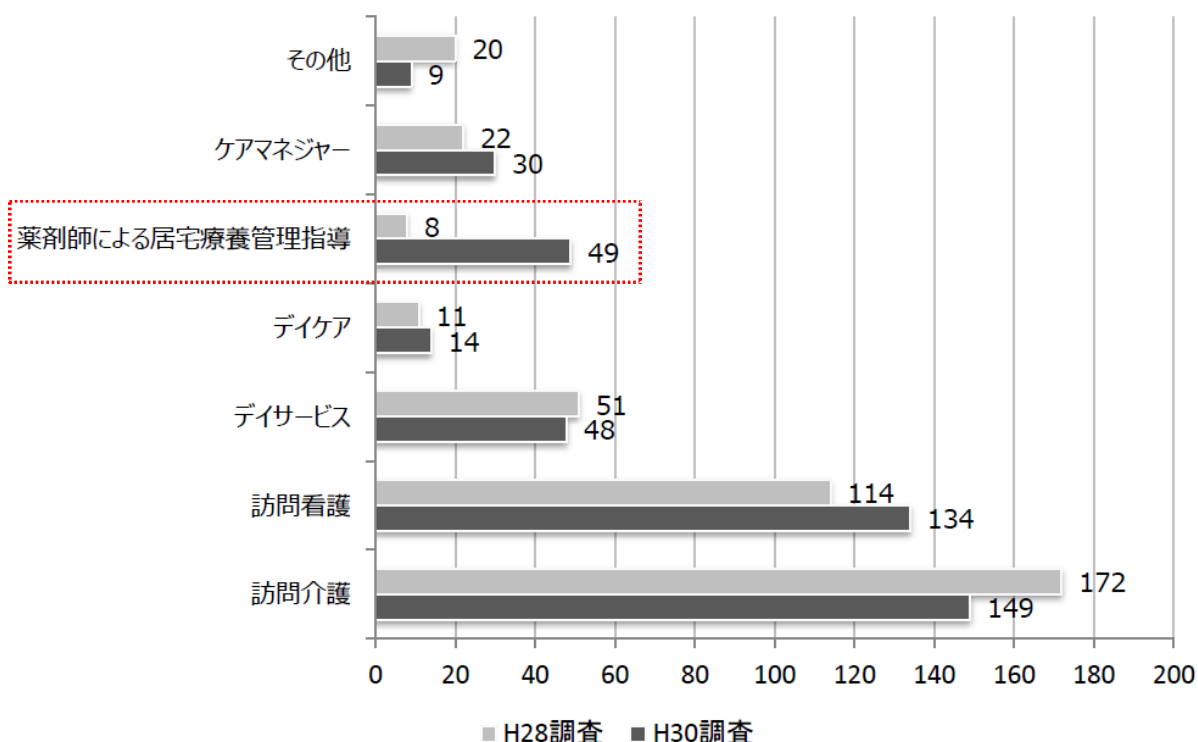
H30アンケート結果



○服薬管理が必要な理由は、前回アンケートから大きな変化はありませんでした。

6. 服薬管理を行うことが多いサービス（ケアマネのみのアンケート） <図4>

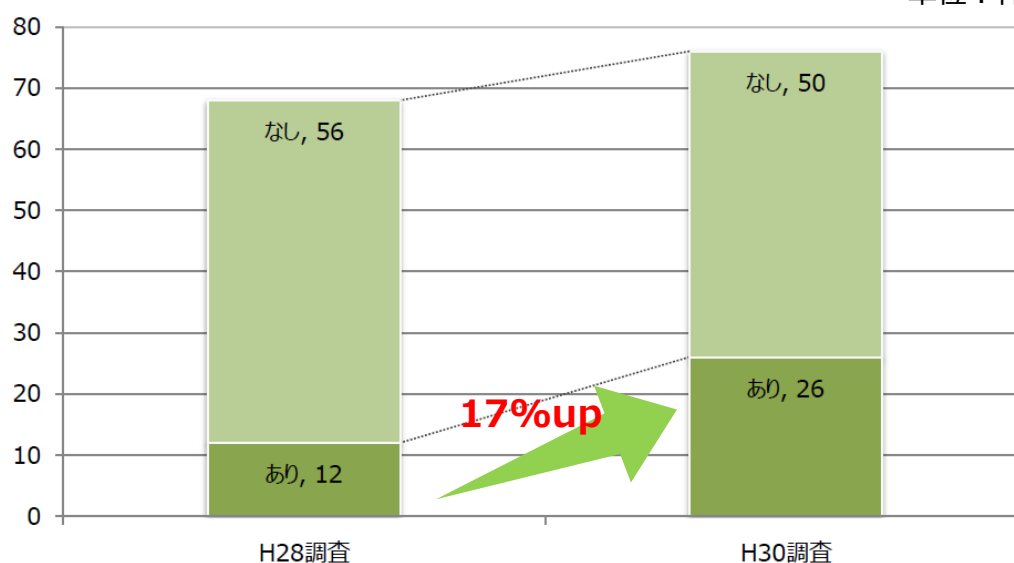
単位：ポイント



○前回のアンケートから、「薬剤師による居宅療養管理指導」のポイントが大きく増えました。その他、「訪問看護」「デイケア」「ケアマネジャー」が増えています。

7. ケアプランに薬剤師による居宅療養管理指導を位置づけたケースの有無（ケアマネのみのアンケート） <図5>

単位：件

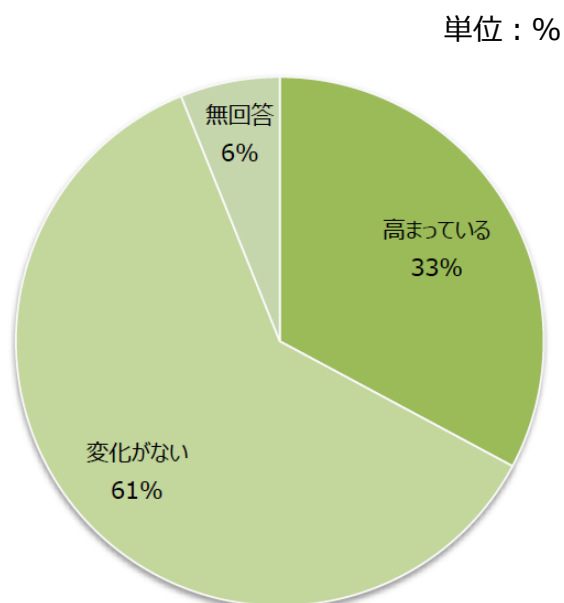


○前回のアンケートから、ケアプランに「薬剤師による居宅療養管理指導」を位置づけたケースが増加しました。

【ケアプランに位置づけたケースの割合】 平成28年度…17.6% 平成30年度…34.2%

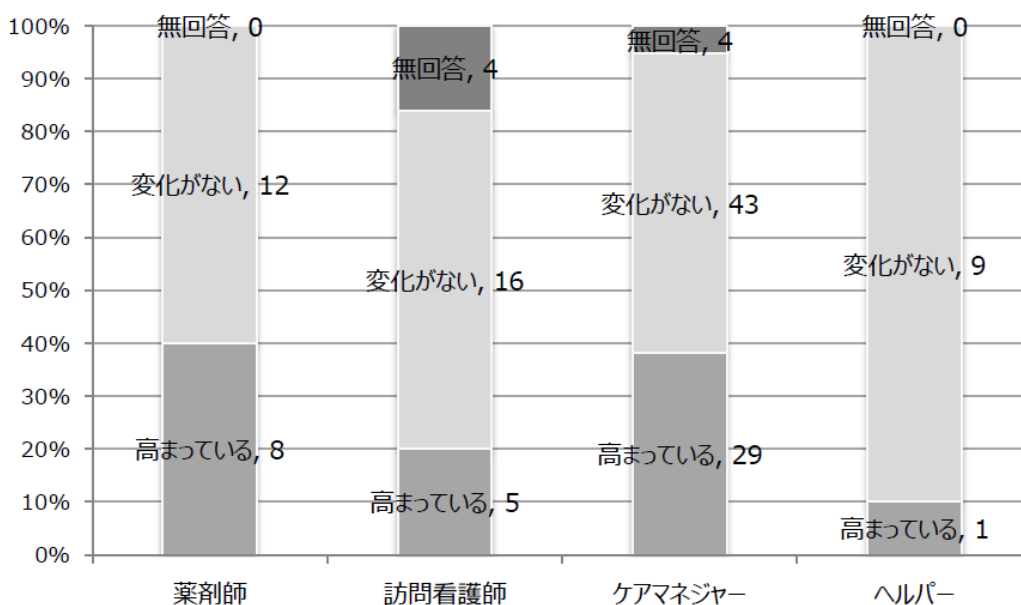
8. 前回アンケート(平成28年)からの、他職種との連携の高まりの変化

＜図6：他職種との連携が高まったと感じている専門職の割合＞



○33%の専門職が、前回アンケート(平成28年)に比べ、他職種との連携が高まっていると感じていることが分かりました。

＜図7：他職種との連携が高まったと感じている専門職の割合（職種別）＞



○他職種との連携が高まったと感じている専門職の割合を職種別に見ると、「薬剤師」と「ケアマネジャー」で約4割の人が高まったと感じていることが分かりました。

他職種との連携の高まりの変化

<「高まった」と感じている専門職の主な意見>

■ 薬剤師

- 医師から服薬管理の依頼が来るようになった。
- ケアマネジャーより相談回数が増え、密になってきている。

■ 訪問看護師

- 薬剤師から声がかかるようになった。
- 先生あてに頻尿の情報をシールに記入したら処方下さり、お薬手帳に返事も記入いただけた。

■ ケアマネジャー

- 居宅療養管理指導を実際に導入したら、薬剤師との連絡が増えた。
- 薬剤師さんにサービス担当会議に出席して頂き、薬の説明や効果等説明して頂き、デイサービスやショート先での服薬方法、声かけ等検討できた。
- 訪問看護師や医師が以前よりも薬について気にしてくれるようになったと思う。
- 各事業所、家族との連携が取りやすくなった。事業所の意識が高まった。
- 利用者の家族が救急搬送が必要な時に、「薬の連絡帳」に記載の「伊賀市救急・健康相談ダイヤル24」を活用し、救急車が来るまで聞いた留意事項に基づき対応された例があった。

■ ホームヘルパー

- 訪問看護さんとの連携は高まったように思う。（担当者会議等の開催により）

<「変化がない」と感じている専門職の主な意見>

■ 薬剤師

- 在宅をしていないので、あまり接点がありません。

■ 訪問看護師

- シールを貼ってもレスポンスがない。

■ ケアマネジャー

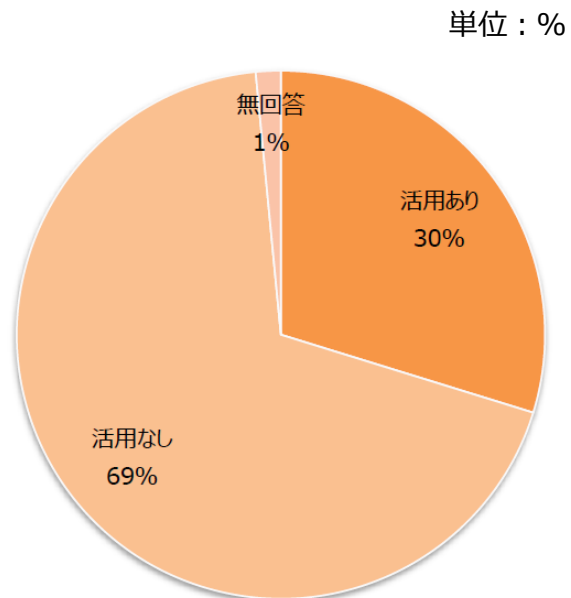
- 普段からしている。

■ ホームヘルパー

- 制度の認識が薄い。（自分も含め）

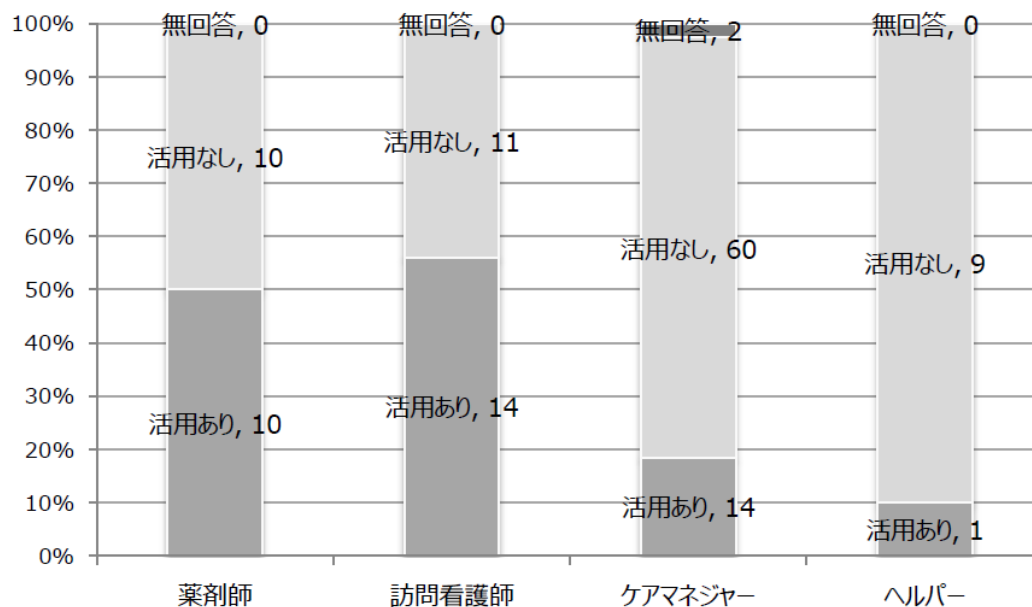
9. お薬手帳事業における「連携シール」の活用状況

＜図8：お薬手帳事業で「連携シール」を活用した専門職の割合＞



○30%の専門職が、お薬手帳事業において「連携シール」を活用されていることが分かりました。

＜図9：お薬手帳事業で「連携シール」を活用した専門職の割合（職種別）＞



○「連携シール」を活用した専門職の割合を職種別に見ると、「薬剤師」が50%、「訪問看護師」が56%、「ケアマネジャー」18.4%、「ヘルパー」10%となっています。

「お薬手帳事業」の課題

＜自由記載での主な意見＞

■ 薬剤師

- 手帳にそのまま記録しても良いかと思う。
- シールの活用がどのような効果をもたらしたか意見を聞きたい。
- 本来連絡帳を必要とする方々にはちゃんと行き渡っているのか？
- 医師と患者が気付いていないことが多い。

■ 訪問看護師

- 薬剤師の意見の記載もほしい。
- 記入してもDr.や薬剤師が見てくれておらず、同処方されて薬が残ってきている。
- 本人が薬が残っていることを知られたくなく、記入を断られることもある。
- お薬手帳自体を家人が管理していると、訪問時お薬手帳に記入できない。
- 薬局ではお薬手帳を見せても、クリニックで見せず、重複で処方される。
- 認知症などでお薬手帳の必要性や管理ができない人がいる。
- 医師が見てくれるようにしてもらいたい。

■ ケアマネジャー

- 1冊にまとめる効果はあったと思うが、活用に至っていない。活用方法の啓発が必要。
- 連携シールの活用が難しい。
- ケアマネではなく、主治医や病院より積極的に勧めて行く方が普及するのでは？
- 連携シールは小さくて書きにくかった。
- 主治医の意識と本人の意思によるところが大きいと思う。
- 薬局でのヒアリングの強化もあわせてお願いしたい。
- 認知症高齢者が増えてくるなか、お薬手帳の管理がむずかしい。
- 家族、利用者の意識が低い。

■ ホームヘルパー

- 今後、ICTにて全薬局がいつ処方されたのか把握できるようになれば良い。

「お薬手帳事業」を通じて、新たに見えてきた課題

＜自由記載での主な意見＞

■ 薬剤師

- 予算をかけてシールを作る必要はない。
- 全世帯を対象に「薬の連絡帳」カバーを配布した上で、この活用を全市民に広げてはいかがかと考える。

■ 訪問看護師

- ヘルパーや他の記入があってほしい。
- 患者は、Dr.が出す薬を飲まずにためている事をDr.に知られたくないという思いがある方の存在も多いと気付いた。
- 記入を断られた場合の他職種への連携は？医師やケアマネには報告しているが、たくさんの医療機関にかかっている場合は連絡ができない。
- 細かな経過や症状はシールに記入しきれない為、情報提供書を都度作成して医師に連絡しているが、足を運ばないといけなのでロスが多い。IT化できると良い。
- 検査データを貼ったり、その時の症状を書き込める所があったりして、その人のカルテのようになるといい。

■ ケアマネジャー

- 居宅療養管理指導の認知度が低い。

■ ホームヘルパー

- 飲み残りの薬についてどうしたらよいか。